



車のお手入れ

車の整備、お手入れの方法について
説明しています。

■ 車のお手入れ

エンジン ルーム -----	294
消耗品の補給、交換 -----	296
タイヤの点検 -----	299
タイヤ交換 -----	301
室内のお手入れ -----	306
エアコンのお手入れ -----	306
ボディ、塗装面のお手入れ -----	307
ワイパーの交換 -----	309



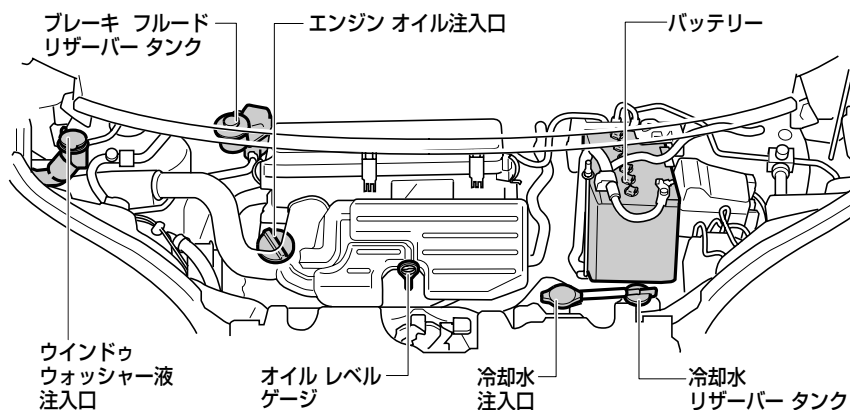
車のお手入れ

車を安全、快適にご使用いただくには、日頃のお手入れが大切です。点検方法などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

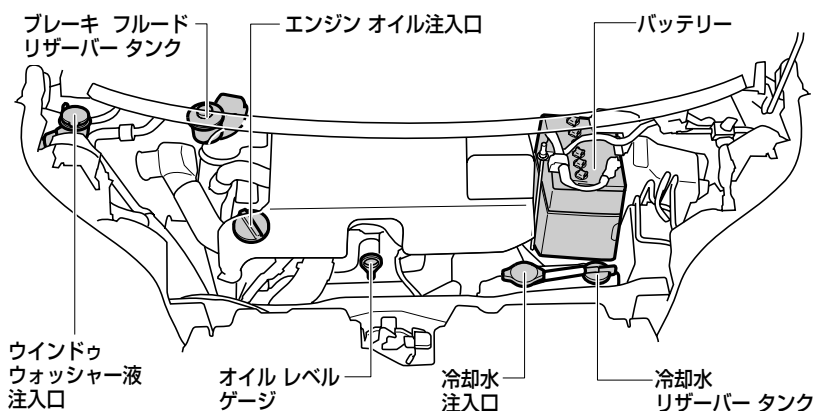
エンジン ルーム

グレードの違い、メーカー オプションも記載しています。

ターボ車以外



ターボ車



△注意

- エンジン ルーム周辺に人がいるときは、プッシュ スタートの操作をしないでください。エンジンが始動すると、けがをするおそれがあります。

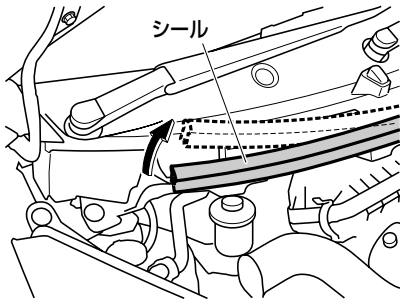


エンジン ルーム サービス カバー

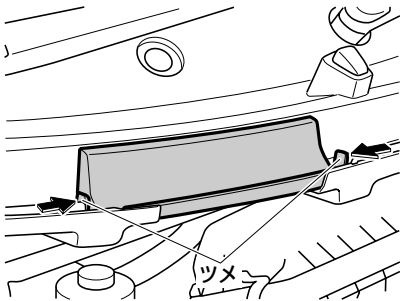
ブレーキ フルードの点検・交換をするときは、エンジン ルーム サービス カバーを取り外します。

▼カバーの外しかた

1. 車両の中央部あたりまで、シールをめくります。



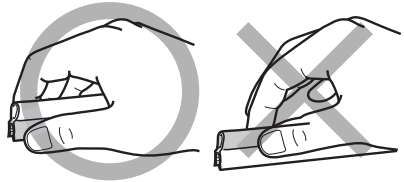
2. ツメを矢印の方向に押しながら、カバーを取り外します。



▼カバーの取り付けかた
逆の手順で行います。

⚠注意

- シールをめくるときは、下側の取り付け部を持ってください。上側を持ってめくると、シールが破れるなど破損するおそれがあります。



- シールを元に戻すときは、中央側から取り付けてください。端側から取り付けるとシールがたわみ、ボンネットが確実に閉まらない場合があります。



消耗品の補給、交換

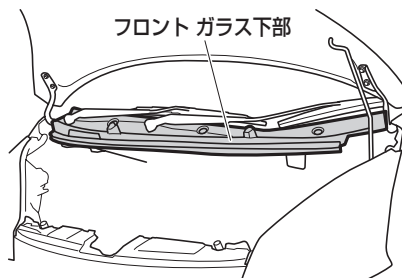
消耗品の補給、交換などは、別冊の「メンテナンス ノート」に記載していますので、参照してください。

⚠警告

- エンジン ルームは大変高温になっていることがあるため、下記のことをお守りください。
- やけどをするおそれがありますので、点検するときは、十分に冷めてから行ってください。
- 点検したあとは、エンジン ルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。点検や清掃に使用した工具や布などをエンジン ルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、車両火災につながるおそれがあります。
- オイルを点検・交換するときは、オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。
オイルが付着したときは、ただちに拭き取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあります。

⚠注意

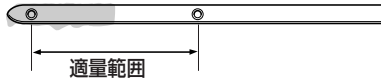
- エンジン ルームを点検するときは、フロント ガラス下部周辺に物を置かないでください。エンジン内部に物が落下し、故障につながるおそれがあります。





エンジン オイル

エンジン オイルの量を定期的に点検してください。なお、高速走行を行う前には、必ず点検してください。



オイルレベルゲージ

👉 アドバイス

- エンジン オイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをするはたらきがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、エンジン オイル注入口の裏側や、オイル注入口にエンジン オイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジン オイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機等で水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジン オイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

冷却水

▼ 冷却水の点検について
冷却水リザーバー タンクの側面の目盛りで行ってください。

詳しくは別冊の「メンテナンス ノート」を参照してください。

⚠ 警告

- 水温が高いときは、冷却水注入口を外さないでください。冷却水の圧力が冷却水注入口にかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、大変危険です。
- 冷却ファンに絶対に触れないでください。ファンが回転するため、大変危険です。





車のお手入れ 車のお手入れ

ウインドウ ウォッシャー液 の補給

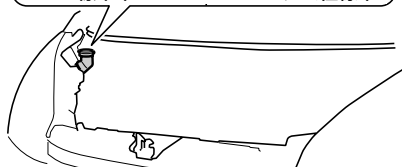
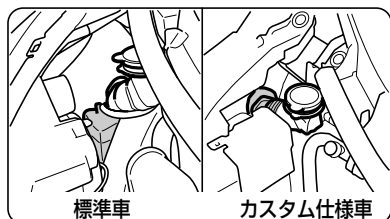
ウォッシャー液の量を定期的に点検してください。ウォッシャー液が不足しているときは、スバル指定ウインドウ ウォッシャー液を補給します。

アドバイス

- ウインドウ ウォッシャー液はスバル指定をおすすめします。ウォッシャー液の濃度の使い分けと注意事項はウォッシャー液の容器に記載されています。
- ウインドウ ウォッシャー タンクはフロント、リヤ兼用です。

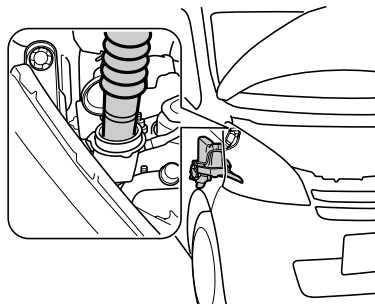
▼点検のしかた

ウォッシャー タンクの側面から、液面を目視により確認します。



▼補給のしかた

ウォッシャー タンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。

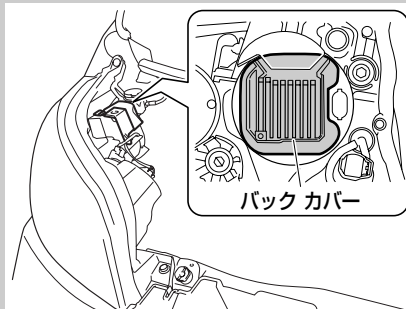


⚠警告

- エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときはウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあり危険です。

HIDランプ装着車

- HIDランプが点灯しているとき、および消灯した直後は、ランプの裏側のバックカバーが高温となっているため、触らないでください。やけどをするおそれがあり危険です。





△注意

- ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れないでください。塗装のしみや目づまりになるおそれがあります。

👉アドバイス

- ウォッシャー液をあふれるほど入れないでください。

タイヤの点検

タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧の点検は、最低でも月に1回行ってください。

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで空気圧が規定値にあるかを点検してください。

空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

(タイヤの指定空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています。)

△警告

- 指定空気圧より低いと車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤが偏摩耗や早期摩耗します。高速走行時にスタンディングウェーブ現象*によりタイヤがバースト(破裂)するなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

👉アドバイス

- タイヤが冷えているときとは、一般道路で走行距離が1km以下の場合、または3時間以上駐車している状態のことをいいます。
- タイヤが暖まっているときは、タイヤの中の空気が膨張しているため、約20~30kPa (0.2~0.3 {kgf/cm²}) 空気圧が高くなっています。この場合、誤って空気圧を下げないようにしてください。

* 高速で走行しているときに、タイヤが波うつ現象。





タイヤの亀裂、損傷

タイヤの側面や接地部全周に亀裂や損傷がないかを点検してください。

また、釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んでいないかを点検してください。

⚠警告

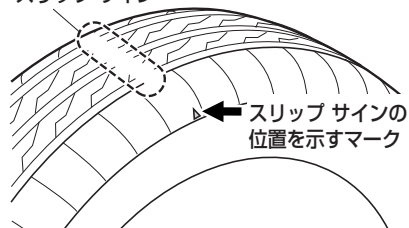
- タイヤの側面などに傷や亀裂のあるような異常なタイヤを装着しないでください。
- 異常があるタイヤを装着していると、走行時にハンドルが取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、バースト（破裂）など修理できないような損傷をタイヤにあたえたり、タイヤが横滑りするなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。走行中、異常な振動を感じた場合は、スバル販売店で点検を受け、正常なタイヤに交換してください。
- 異常があるタイヤを装着していると、車の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が十分に発揮できないばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、部品に悪影響をあたえるなど故障の原因となることがあります。

タイヤの溝の深さ、異常な摩耗

タイヤの溝の深さに不足がないかをスリップサイン（摩耗限度表示）により点検してください。

また、タイヤの接地面全周に極端にすり減っている箇所がないかを点検してください。

スリップサイン



⚠警告

- 摩耗限度を超えたタイヤは使用しないでください。タイヤの溝の深さが少ないタイヤやスリップサイン（摩耗限度表示）が出ているタイヤをそのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象*により、ハンドルが操作できなくなったり、タイヤがバースト（破裂）したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。摩耗限度を超えたら、すみやかに正常なタイヤと交換してください。

* 水のたまった道路を高速で走行すると、タイヤと路面の間に水が入り込み、タイヤが路面から浮いてしまい、ハンドルやブレーキが効かなくなる現象。



タイヤのローテーション

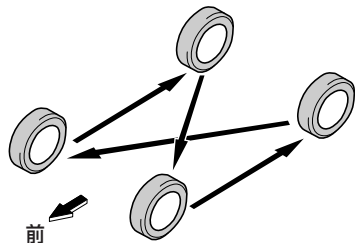
タイヤは同じ位置で長く走ると、それぞれ異なった減りかたをします。これを防ぐために、タイヤの位置をローテーションしてください。

ローテーションは 5,000km走行ごとに行ってください。

▼ローテーションのしかた

図の順にローテーションしてください。

(タイヤ交換 → 301 ページ)



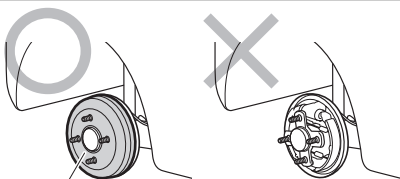
タイヤ交換

▼交換作業を行うにあたって

⚠警告

- ジャッキ アップした車の下にもぐらないでください。万一、ジャッキが外れると大変危険です。
- 駐車ブレーキは、必ず十分にかけてください。駐車ブレーキをかけずに後輪タイヤを取り外すと、まれにブレーキドラムがタイヤと一緒に外れることがあります。タイヤを外したあとは、ブレーキドラムが外れていないことを確認してください。

ブレーキドラムが外れたままタイヤを交換すると、ブレーキが効かず大変危険です。



ブレーキドラム





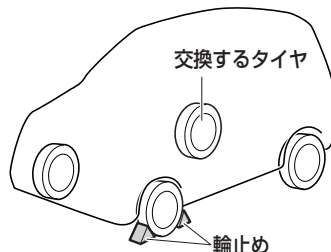
車のお手入れ 車のお手入れ

⚠️注意

- タイヤは必ず指定サイズのタイヤを使用してください。指定サイズ以外のタイヤを使用すると安全性を損ない大変危険です。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッド パターン（溝模様）の物を装着してください。
- この車専用以外のホイールを使用しないでください。専用以外のホイールを使用すると、走行装置やブレーキ装置に支障をきたし、安全な走行ができなくなります。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。
- アルミ ホイール装着車は、専用品以外のナットは使用しないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。
- 傷、変形がある物は再使用しないでください。
- タイヤの空気圧を確認してください。
（タイヤの空気圧は運転席側ドア開口部に記載しています）
- 車を交通のさまたげにならず安全に作業できる平らな場所に移動させて作業を行ってください。
- パンクなどにより路上で作業を行うときは、交通のさまたげにならない場所に寄せ、非常点滅灯を点滅させ、停止表示板を使用してください。
- 人は車から降り、重い荷物は車から降ろしてください。

交換の手順

1. 駐車ブレーキを十分にかけ、エンジンは停止し、セレクト レバーをRレンジの位置にします。
2. 交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に輪止めを置きます。

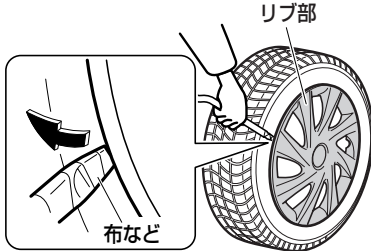


📖アドバイス

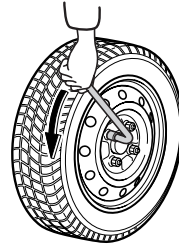
- 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。
3. 工具、ジャッキを取り出します。
（格納場所→ 238 ページ）
（ジャッキの使いかた→ 239 ページ）



4. フル ホイール キャップ装着車は、傷付き防止のため、先端に布などを巻いたジャッキ ハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込み、タイヤを支点にしてフル ホイール キャップを外します。

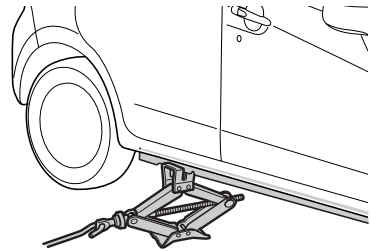


5. ホイール ナット レンチでホイール ナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



6. タイヤと路面が少し離れるまでゆっくりとジャッキ アップし、車体を上げます。

(ジャッキの使いかた→ 239 ページ)



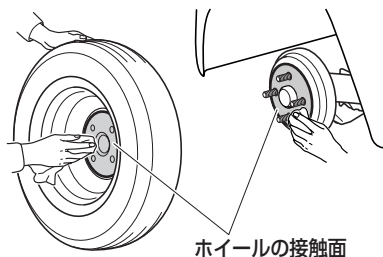
△注意

- キャップは手で外さないでください。けがをするおそれがあります。
- ホイール キャップを外すとき力を入れすぎないでください。けがをしたり、ボディなどを傷付けるおそれがあります。
- ジャッキ ハンドルは必ず穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んでください。ホイール キャップが割れるおそれがあります。



車のお手入れ 車のお手入れ

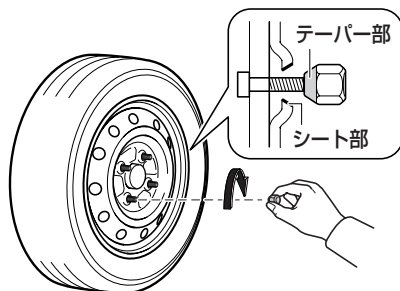
7. 4 個のホイール ナットを外し、タイヤを外します。
 - タイヤを地面に置くときは、傷が付かないように、ホイール意匠面を上向きに置いてください。
8. 取り付けるタイヤのホイールの接触面の汚れをふき取ります。



⚠注意

- タイヤを取り付けるときに、ホイールの取り付け部やホイール裏側の取り付け面がほこりなどで汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあり危険です。

9. タイヤを取り付けます。
10. ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまで、ナットを右に回して仮締めします。

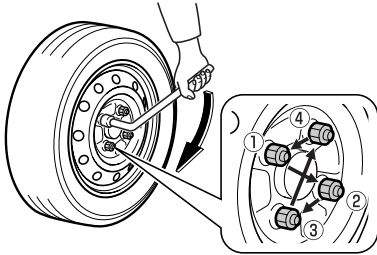


⚠注意

- ナットやボルトにオイルやグリースをぬらないでください。ナットがゆるんでタイヤが外れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、必要以上に締め付けられて、ナットやボルトが破損するおそれがあります。



11. タイヤが地面につくまで車体をおろし、ホイール ナットを均等に対角線の順にホイール ナット レンチで 2、3 度にわたり十分締め付けます。

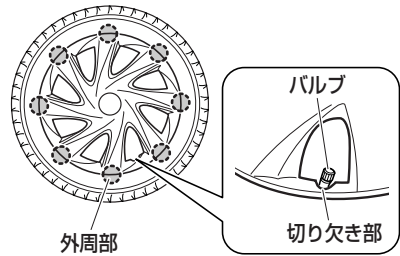


⚠注意

- ホイール ナット レンチを足で踏んだり、パイプを継ぎたしたりしないでください。必要以上に締め付けると、ボルトが破損するおそれがあります。
- 締付力（ホイール ナット レンチ先端にて）：440～590N {45～60kgf}
- 締付トルク：103N・m {1,050kgf・cm}

12. フル ホイール キャップ装着車は、フル ホイール キャップを取り付けます。

- タイヤのバルブとフル ホイール キャップの切り欠き部を合わせ、フル ホイール キャップの外周部を押して取り付けます。



13. 工具、ジャッキ、タイヤを片付けます。

14. 走行後ホイール ナットのゆるみがないことを点検します。

⚠注意

- タイヤを脱着したときは、しばらく走行したあと、再度ホイール ナットにゆるみがないことを確認してください。
- 走行中、ハンドルや車体に振動が出た場合は、タイヤのバランスの点検をスバル販売店で受けてください。



車のお手入れ 車のお手入れ

室内のお手入れ

ビニール、レザー、プラスチック、布材の汚れ落としには、中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませてお使いください。洗浄後、残った洗剤分は真水を含ませた柔らかい布でよく落としてください。室内側のウインドウ ガラスも、こまめにふいておきましょう。汚れたままにしておくと、取れにくくなる場合があります。

⚠️注意

- ベンジン、ガソリン、シンナーなどの有機溶剤は変色、しみなどの原因となるので使わないでください。特にシート ベルトについては、必ず中性洗剤を溶かしたぬるま湯を使用してください。中性洗剤以外を使用すると、ベルトが弱くなり万一のときに正常なはたらきをしないことがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。
- 乾燥は直射日光をさけ、風通しが良く、ほこりの立たない日陰で行ってください。素材のいたみを早める原因となります。

👉アドバイス

- リヤ ウインドウ ガラス内面を清掃するときは、電熱線を傷付けないでください。

エアコンのお手入れ

エアコン ガス

エアコン ガスは新冷媒 HFC134a (R134a) を使用しています。地球環境保全のため、大気放出しないでください。

👉アドバイス

- エアコン ガスの補充、エアコンの修理をする場合はスバル販売店にご相談ください。

クリーン エア フィルター

エアコンには、車外から進入する粉じんなどを除去し、車内を快適な空気に保つクリーン エア フィルターが取り付けられています。快適にお使いいただくため定期的な交換をおすすめします。

- フィルターの交換については、スバル販売店にご相談ください。
- 交換の目安は 20,000km (大都市、寒冷地など交通量や粉じんが多い場所は 10,000km) です。

👉アドバイス

- エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。



ボディ、塗装面のお手入れ

塗装面など車体の外観を美しく保つためには、洗車、ワックスかけを月1回程度の割合で定期的に行ってください。また、長時間屋外で駐車するときは、ボディカバーを付けるように心がけましょう。車体にほこりや異物などを付けたままにしておきますと、塗装面の劣化や車体、部品の腐食を早めたり、化学変化による塗装面の変色やはん点の発生などの原因になります。

下記の場合は早めに洗車をしてください。

- 海岸地帯、凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ばい煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所に駐車したとき
- コール タール、花粉、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- ほこり、泥などで著しく汚れたとき

アドバイス

- 海岸地帯や凍結防止剤を散布した道路を走行したあとは、特に車体の下回り、足回りを念入りに洗車してください。
- 塗装の飛石傷やかき傷は、腐食の原因となります。見つけたら早めにペイントで補修してください。
- 保管、駐車は風通しの良い車庫や屋根のある場所をおすすめします。
- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。

洗車

▼ 洗車の手順

1. 十分に水をかけながらスポンジまたはセーム皮のような柔らかい物で洗います。汚れのひどい箇所はカーシャンプー液または中性洗剤で洗い、水で完全に洗い落とします。
2. 水が乾かないうちにふき取ります。

注意

- 故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障の原因になります。
- 洗車後や水たまり走行後は低速でブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常にはたらくことを確認してください。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで数回ブレーキペダルを軽く踏んでください。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- 下回り足回りを洗うときは手をけがしないように注意してください。
- ランプのレンズ表面をワックス・ベンジンやガソリンなどの有機溶剤でふいたり、硬いブラシでこすらないでください。レンズが破損したり、劣化を早めるおそれがあります。

アドバイス

- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤を使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。



車のお手入れ 車のお手入れ

○自動洗車機を使用するとき

⚠注意

- エアコン コントロール パネルの内外気切り替えスイッチで“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。
- ミラーは格納し、ルーフ アンテナを取り外して、前側から洗車してください。また、走行前には必ずアンテナを元どおりに取り付けてください。
- ときによりブラシの傷が付き、塗装の光沢が失われたり劣化を早めることがあります。

○高圧洗車機を使用するとき

⚠注意

- ドア ガラスやドア周りなどの開閉部分に洗車ノズルを向けると、車内に水が入ることがあります。

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、およびリヤゲート ハンドル下側のスイッチ周辺に洗車ノズルの先端を近付けすぎないようにしてください。水圧によりスイッチが破損するおそれがあります。

ワックスがけ

月に一回程度または水をはじかなくなつたときに行ってください。

▼ワックスをかける前に

塗装面の汚れを水洗いし、水分を十分にふき取ってから日陰または車体表面が体温以下になっているときに行ってください。ワックスはスバル指定カー ワックスをおすすめします。

⚠注意

キーレス アクセス装着車

- フロント ドア ハンドル、およびリヤゲート ハンドル下側のスイッチ周辺にワックスが付着したときは、鋭利なもので清掃しないでください。スイッチが変形して操作のさまたげになるおそれがあります。



アドバイス

- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りのワックスを使用すると、車体の色によっては色落ちの原因になることがあります。



樹脂部分のお手入れ

樹脂塗装部品（バンパーなど）にガソリン、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。十分に水洗いをしたあとただちに柔らかい布でふき取ってください。

アドバイス

- 樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、スバル販売店にご相談ください。不適当な塗料を使用すると塗膜をいためます。

アルミ ホイールのお手入れ

オプション/グレード別装備

アルミ ホイールはボディの洗車と同じ要領で行い、ボディと同じワックスでワックス掛けをしてください。

注意

- アルミ ホイールにワックス掛けをする際は、ホイール ナットの座面にワックスを付着させないように注意してください。必要以上に締め付けられ、ボルトが破損するおそれがあります。

ワイパーの交換

注意

- ワイパー ブレード、ラバーはスバル指定品をおすすめします。スバル指定以外を使用すると、適切に装着できない場合があります。
- 傷んだワイパー ブレード ラバーを使用し続けると、ウインドウ ガラスを傷付けるおそれがあります。拭きむらがある場合は、早めに交換してください。
- フロント ワイパー アームを起こすときは、必ず運転席側のワイパー アームから起こしてください。また、もとに戻すときは助手席側のワイパー アームから戻してください。
- ワイパー ブレード、ラバーを取り外したときは、ワイパー アームを倒さないでください。ウインドウ ガラスやボンネットに傷が付くおそれがあります。
- 起こしたワイパー アームに戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。離れた位置から戻すと、ワイパー アームが変形したり、ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。
- 確実に取り付けられていることを確認してからワイパーを作動させてください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

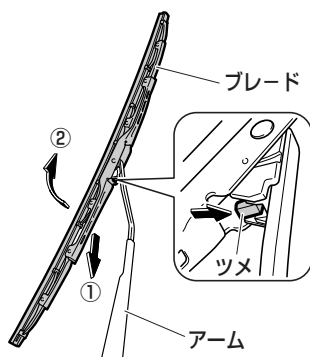


フロント ワイパー

○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードをツメが見える角度まで傾けます。
3. ツメを押しながら、ブレードを矢印①の方向に引いたあと、矢印②の方向に抜き取ります。



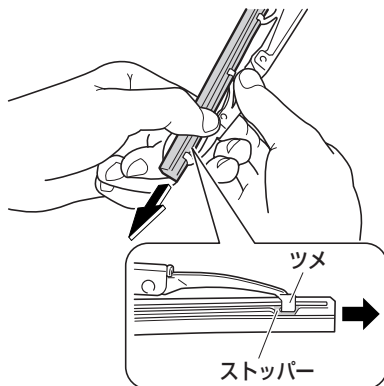
▼取り付けかた

- ブレードをアームに取り付けます。
- ブレードとアームが確実に固定されていることを確認してください。

○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引きます。

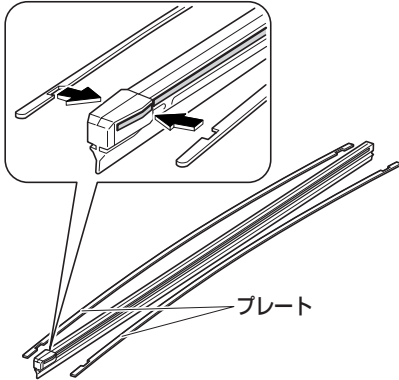


2. そのままラバーをブレードから引き抜きます。



▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。



4. ストッパーがない側からラバーをブレードに挿入します。
5. 取り付けたとき、ストッパーのある側が運転席側になるようにしてください。

⚠注意

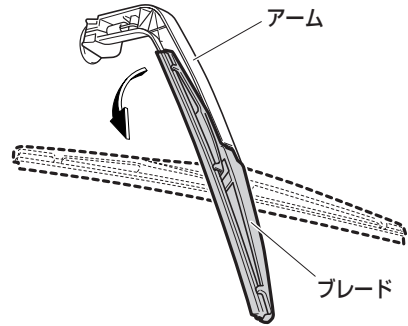
- ラバーのストッパーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウィンドウガラスに傷が付くおそれがあります。

リヤ ワイパー

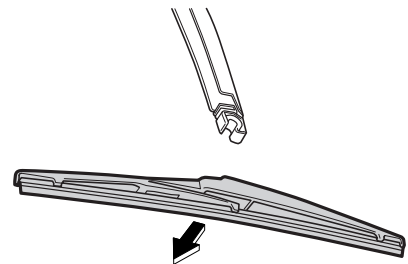
○ワイパー ブレード

▼取り外しかた

1. アームを起こします。
2. ブレードを矢印の方向に回し、アームと垂直にします。



3. ブレードを矢印の方向に引いて、アームからブレードを引き抜きます。



▼取り付けかた

逆の手順で行います。

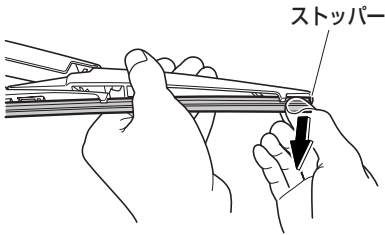


車のお手入れ 車のお手入れ

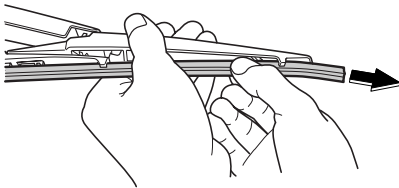
○ワイパー ブレード ラバー

▼取り外しかた

1. ラバーを手前に引いて、ブレードの先端部のストッパーから取り外します。

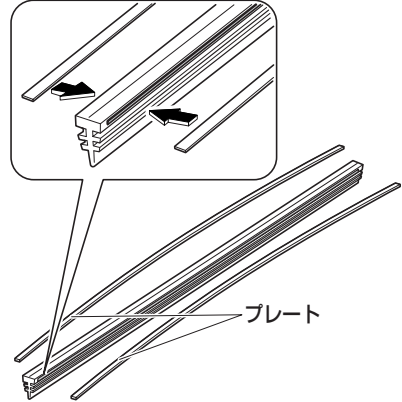


2. ラバーをブレードから引き抜きます。



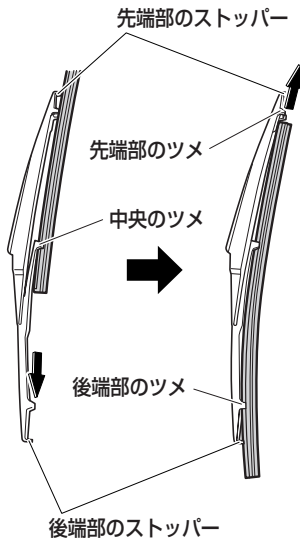
▼取り付けかた

1. ラバーからプレートを取り外します。
2. ラバーを取り替えます。
3. プレートの反りの向きに注意して、プレートをラバーに差し込みます。





4. ブレードの中央のツメからラバーを挿入します。
5. ブレードの後端部のツメにラバーを通し、さらにラバーを挿入して、後端部のストッパーを通過させます。
6. 先端部のツメにラバーを通し、先端部のストッパーまで挿入します。
7. 後端部のツメにラバーが確実に挿入されていることを確認してください。



⚠注意

- ラバーにブレードのツメを確実に挿入してください。ウインドウ ガラスに傷が付くおそれがあります。

MEMO

Dotted lines for writing.